

議 事 概 要 書

会議名称	第2回 伊那市誌編さん委員会
日 時	令和3年3月12日（金）午後2時30分～午後4時20分
場 所	伊那市役所 502会議室
出席者	編さん委員：12名（欠席：1名） 事務局：教育長、教育次長、企画調整幹、担当
議 題	下記のとおり

議 事 内 容

1 開会（教育次長）

2 教育長あいさつ

1月の委員会の立ち上げから、編さん委員会が一気に動きを早めているように感じている。委員長を始めとする皆様が、事務局と大変よく繋がってくださっているからだろう。例えば、本日も皆様をお願いしている組織に関わる検討等についてよく重ね合っていたりしている。なおなお、人の繋がりを強め広げながら編さん事業を進めていただきたい。ぜひよろしくお願ひしたい。

現在、市では3月議会が開かれている。ご存じの通り、3月議会は次年度の取り組みが柱となり、予算の審議を行う。そのことから、昨年度当時の議長より開会日に教育長所信を述べるようにと求められ、2月26日に述べさせていただいた。

生涯学習課の事業という中で、1点目に西春近公民館の改築について述べ、2点目にこんな風に述べさせていただいた。『伊那市誌』の編さんについてである。1月末の第1回市誌編さん委員会において編さんのための組織が固まった。旧美篤子育て支援センターを整備した市誌編さん室を拠点に、編さん事業を推進していく。

このような、事柄を事柄として述べさせていただいたわけだが、皆様には大変なお気持ちをいただいで進めていく事業だ。大変なご負担をお願いすることになる。本日、部会の編成と広報誌について具体的な検討をしていただくと存じている。よろしくお願ひしたい。

3 委員長あいさつ

2回目の委員会ということで、本格的な皆様のご意見をいただきながら方向を固めて、編さん事業に着手していきたいと思う。

前回の1回目からこの2回目にかけて、私が大変注目したのが市報いな3月号で、市長が『伊那市誌』の編さん事業についてご自分のご意向を示していたことだ。特に注目すべきは、災害史と観光史のふたつは、今回の編さん事業の柱になるだろうという見解を示していたことである。

前回の委員会でも若干示したが、今日は特に分野・ジャンルについて皆さんと協力してまとめていきたいと思う。慎重審議、色々な意見を出していただき意義ある会にしたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

4 自己紹介

<委員長から席順に委員12名の自己紹介>

5 会議事項（進行：委員長）

(1) 部会の編成について

<資料に沿って企画調整幹より説明>

委員長：まず前提に、統括会について皆さんにご了解を得たい。委員会の開催に向けて、予め案を作り皆さんにお送りし検討していただくというシステムとして統括会があり、委員長と副委員長2名、事務局で2回ほど会議を行った上で書類の準備をしている。今後も皆さんの意見を聞いて、統括会で整理をしながら案を委員会で上程していくという流れで進めていくので、よろしくお願ひしたい。

部会だが、当初の編成案から8部会に編成替えしたプランをお示しした。まずは部会の設定としてご意見をいただきたい。

<質疑・意見等>

委員：基本的な考え方についてだが、事務局から示されているのは各部会ともに合併前後から年を追う形で記述していく方法であったかと思う。大きな部会の構成としては、以前の『伊那市史』などを踏襲する形で考えているのだろうが、今回の超現代史を編むにあたっては同じように20年から30年の年代を分野ごとに追って書くのか。

前回の市誌は、明治維新後から昭和50年代までの時代を分野ごとに構成されていたと思う。前回と違い非常に短い時代を記述するわけだが、前回と同じスタイルで作ることが良いのだろうか。

加えて、この市誌のボリューム感の想像ができていないが、どのくらいのボリュームで考えているのか。また、章立てに直結すると思うが、自然や民俗文化など歴史的な記述に馴染まない分野は、どのように記述するのか理解できないでいる。

委員長：超現代史と言える合併前後から現在までの約30年を編年体で示すのかということについては、全体でコンセンサスをとっていない。

統括会では、『上田市誌』が話題になった。記述している時代は長いが、これまでの県史や市町村誌とは変わった形で編さんされ、読みやすく、興味が湧きとつきやすい編さん内容で参考になると思っている。

今日明日で決めるということではない。今の意見についても、他にご意見があればお願ひしたい。

委員：合併前後と言われているが、前回は昭和57年～59年に発行されている。発行後から平成18年の合併にかけての空白の時代について記述がないのはおかしいと思う。合併ではなく、前

の市町村誌の続きから記述するのが良いのでは。『長谷村誌』や『高遠町誌』の関係で、長谷や高遠についてはどのように記述していくかという問題もある。

また読みやすい市誌ということだが、既刊の『伊那市史』はどちらかというと後世に残す資料として細かく難しい部分がある。そういう形態を踏襲していくのか。それとも、もう少し読みやすく高校生あたりでも気楽に読める形態を取るのか、そういった検討がこれから必要になってくると思う。

委員：『上田市誌』は分冊だったと思うが、ボリューム感としては自然だけでこれだけする。（『上伊那の自然』を参考に説明）分冊を進めるなら、デジタル化も含め考えていく必要はあるが、市誌には資料的な面もあるため、資料は資料として別にしかりと製作した上で、文字に起こすのが良いのでは。細かい部分も残していく必要があると思うので、その辺をもう少し揉んでいただきたい。

委員長：今のご意見の資料としてという部分だが、デジタル化で市民にも資料を公開していくことは市でも示している。これも並行して行っていかなければならず、紙だけではない媒体であることも考えていく必要がある。分冊という考えも示されたが、他のご意見もいただきたい。

委員：市民が手に取って読んでくれる市誌にしたいと思う。その場合、研究を目的とする方にとっては使えないという批判が出てくるかもしれない。読み物としてのものと資料編といった分冊が必要なのでは。

短い期間のため、時間を追って書けるものと書けないものがあると思う。コロナ問題や中央道の開通、リニア、三六災害など、きっかけとなる出来事をもとに前と比べる方法はどうか。必ずしも時系列に書くわけにはいかない部分も出てくると思うが、それはそれぞれの分野での書きっぷりによる。

またデジタル化の話で言うと、以前行った古い地名調査がまだ公開されておらず、市民に還元されていない。最終的にはデジタルで公開ということだったと思うが、その後がはっきりしていない。この市誌に関する何らかの形で報告できると良いと思う。

委員：合併以降の市誌と聞いて受けているが、『伊那市史』は昭和50年代、『高遠町誌』は昭和60年代、『長谷村誌』は平成に入って7、8年頃に完成され、資料編としてかなり分厚いものがそれぞれ作ってある。今回、どの辺りから書くのかという理解ができていない。

また、若者に読んでもらいたいと言うならば、女性委員がひとりもないことについてはどう考えているのか。

委員長：どの辺りから書き始めるのかということについては、私としては曖昧に合併前後という言い方をした。各市町村誌の編さん時期が統一されておらず、ここから切り取って扱うというのは難しいだろう。

これまでのものと現在を繋げられるような編さんを個人的に考えていたが、事務局ではここから書くというプランニングはあるのか。

企画調整幹：委員長がおっしゃる通り、『伊那市史』と『高遠町誌』が昭和の終わり、『長谷村誌』が平成8年頃に出来上がり、それぞれの市町村誌は現代編で終わっているわけではない。現代編的な部分と自然編的な部分のそれぞれの刊行物がどの時点で終わっているのか。時間的に見た場合、各内容の最後の部分がどこまで記述されているのか、把握のし直しが必要だと思う。

各市町村誌の出来上がりの時期が違うため、昭和〇年を基準にしてという、ひとつの時間を基準とする方法では図れない部分もあると思う。基本の方針としては、それぞれの市町村誌が出来上がった以降という言い方としている。まずは、その部分を確認していくことが必要だと考える。

話にあった編年体については、時間を追った中で事柄について書いていくというやり方もあるが、内容によってはそういう方法では分かりづらくなることもあると思うので、ひとつの方法だけでは進められないと感じている。どんな方法があるのかご意見をいただきたい。

委員長：あまり決定的にはしていないということで、ご了解いただきたい。

女性編さん委員がひとりもないことについては、私個人も思っており、統括会でも話題になった。市の意向として、今の倍くらい拡大しても良いと聞いている。次回の委員会までに、事務局までに女性編さん委員を推薦していただきたい。

委員：もちろん他の分野にも必要ではあるが、特に民俗文化・スポーツで扱う衣食住文化や人生儀礼、あるいは福祉・医療で扱う子育ては、女性の観点があると良いと思う。

委員長：最初の提起は非常に重要なことであった。どういう方向性でという部分でまず時間をかけさせていただいたが、今日の会議でがっちりと方向性が決まったわけではない。鋭意、皆さんの意見を聞きながら方向性を決めていきたいと思う。

委員：他と切り離れた、合併、合併の経過、合併による課題、また地域社会についてまとめる「伊那市のあゆみ」という章を起こして、伊那市の歴史経過を記すと良いのでは。他の分野では縛りを外して自由な形で作り、市民にとって読みやすい、わかりやすいような作りにするのはどうか。

というのも、この市誌で何を伝えたいかということだ。私は、日本書紀を書くのか風土記を書くのかということがよく理解できないでいる。風土記であれば、地域の現在やこの30年を経た今の姿を伝えることになる。伊那の歴史については歴史として書いて、他の部分は違う考え方で書く方が良いのでは。

委員長：伊那市の歩みとは、ひとつの編集された本として作るのか。そこには何を綴るのか。

委員：合併の前から合併に至る経過、その後の課題など合併の部分をまとめる。今のままでは全てがばらばらで、それぞれが書くという動きになっている。

今のままで、市民にとっては読みやすいのだろうか。こういった方法もあるという私の考えだ。また人の営みとしてある交通・情報通信や福祉・医療は、なぜ社会の中の項目ではなく独立しているのか。出来上がりのイメージが湧かない。

委員長：伊那市の歴史とそれをもとにしたこれからをまとめた概説論があった上で、それ以外の分野は各ジャンルに分割し、それぞれの担当がそれぞれの立場でまとめるという考えで良いか。

副委員長：統括会で、この市誌の狙いや時代をどの辺りに設定するのか、どういう人たちが読むのかなど諸々の検討をしたが、皆さんの今までの経験やこのような市誌を作りたいという願いをまず出していただき、そこから練り上げて骨格を組み立てていく考えていた。貴重な意見を出していただき、有意義だと感じている。

合併以後と言っても、なぜ昭和の後に続き平成18年前後に平成の大合併があったのかというその時代背景がある。また一方で、伊那市や長谷村、高遠町では市町村誌を50年代から60年代に作っている。合併は、日本の歴史から見ると極めて重要な時期だった。この辺りから作るには、きちんとした歴史的観点や考察が必要だ。ただ市町村誌の続きから書くということではなく、きちんとした時代設定をしなければいけない。

合併した2008年から編年体でまとめることは無理であり、伊那で起きた色々な分野の多様なものを共有できると良いのでは。様々な変化に焦点を絞り、今の地域の変容や実態を共有する。伊那の特徴を分かりやすくまとめ、多様な観点をに入れていくことが大切だ。『上田市誌』のように、必要な分野を選択して購入できる形が良いと思う。最初から難しいことを書くのではなく、ぱっと見て伊那市をイメージでき、そこから調べてもらえる序章は必要だが、それはこれからのことだ。

至急、統括会から提案しなければいけないのは、いつ頃のことから述べるのか。それを合併だと言うなら、その合併には意味があったはずだ。だから伊那市はこの辺りから書いていく。また、編年体でいくのか项目的に行くのか。それぞれ、どういう観点、理由で据えるのかを考えることが必要だ。

そして誰を対象とするのか。子供を含む伊那市民、小学校高学年から親しんで読んでもらい共有できるようなものでなければ意味がないと思う。本の性格も含めて、もっと絞り込めるように意見を出していただきたい。

今日は少なくとも、提示している分担で良いのかということや項目の確認と整理をし、これから2、3回でしっかり掘り下げて絞り込んでいけるようにすると良いのでは。

委員長：先ほどの発言にあった伊那市の歩みだが、私の言葉で言うと、NHKスペシャルでどの分野

の何を取り上げ、その部分を充実させて皆に興味を持ってもらえるようにするという
ことで、この話を統括会でしました。

とにかく読んでもらえるものにしたいという思いが前提であり、昔のように1,000ペー
ジ近くあり持ち運びに大変ではないものという理解で良いか。

委員：やはり基本として、現在をきちんと記録するということが大事であり、その切り分けが
必要だと思う。税金を使うことなので、もちろん読んでもらえるものでなければいけないが、
後々の批判に耐え得るようなものをきちんと残すべきだ。

委員長：これまでの意見を聞いていると、好奇心が湧いて読んでもらえるものという考えが皆さ
んに共通していると思う。

超現代史となる今回の市誌では、日々の記録をまとめるような組み方では難しい。ジャ
ンルの確定は後々だが、こんなところを市誌で取り上げようという8つのジャンルを提案
しているので、大項目のジャンルとして別に取り上げたいものがあれば伺いたい。

委員：まず8つのジャンルを決め分担を決めるという今のやり方で、興味を持ってもらえる内容
を書くという自信が自分にはない。

このような項目の立て方が今までの市誌編さんの的ではないか。

委員長：各市町村誌をピックアップして、その項目等を分類した時にこういう形になるというの
を事務局では示している。

委員：その方法を批判しているのではなく、そこに至る必然性は当然あると理解している。まだ
市民から評価されていない過去20年の歩みを書く歴史的な記述というのは、簡単なことでは
ないと感じる。私が思うのは、ごみ問題を例にすると、伊那はごみが少ない。これは分類を
強化し、細かな分類を設けているからだ。この細かな分類を自治体ではどのように取り組み、
委員のなりてはどうなっているのかと掘り下げていくことができる。ごみという、ひとつの
テーマを据えると20年分の動きが見えないだろうかということだ。

こういったテーマを考えることになると、これら8つの項目の柱から発想していくことで
良いのだろうか。

委員長：ジャンルの大項目分けで面白さを作るのではなく、これまでとこれからの伊那市が抱え
る課題、興味や好奇心を覚えるようなものを項目としてピックアップして資料収集、研究、
執筆していく方が興味を持ってもらえるのではないかという趣旨で良いか。

委員：例えば、今挙げたごみをテーマに出すと、委員長がおっしゃったような資料収集、検討、
整理のような流れはジャーナリスティックでは。ジャーナリスティックなものでは20年を
描けないとすると、市誌編さんという名前が付いたものとして20年間を描くにはこの編さん

に合った柱のような、具体的なテーマを検討していくと自然に出来上がってくるのではないかと思う。

委員長：委員のご発言と合致するか分からないが、NHKスペシャルという言葉は私は言ったが、それは何を論んでいるかというところ、この20年間でまさに委員が携わっているような老松場古墳で例えることができる。

この遺跡は、この地域で新たに見つかった大変な発見だった。そういうものを大きく取り上げて、先の分冊で言えば分冊の1冊で形成したら良いのではないかという考えだが、合致はしているか。

委員：そういうことだと思う。例えば老松場古墳を取り上げるとするならば、20年以内に起こった出来事であるから、当時発見した小学生が大人になりインタビューを行うことができる。つまり、文献調査だけでなく顔を見て話を聞いたり、動画として残したりすることができるという強みを生かした20年史ができる。

このテーマだから過去に繋がり、このテーマだから未来にも繋がるといった項目を選ぶ方法が良いのではないかと思う。

委員長：今のご意見を聞き、もう少し検討してスタートをきちんとした方が良いと感じている。

委員：前の市史の続き物として考えると、興味を持ってもらえるようなダイナミックなものは作れないと思う。

この農村地区が大きく変わったのは、昭和30年後半から昭和40年代の高度経済成長期だ。この期を経て、養蚕がなくなり農業が衰退し、伝統的な文化が失われ民間信仰が消え社会が大きく変わった。前の市史は昭和50年代の終わり頃で終わっているが、その後の社会の動きは平坦である。この続き物では興味を持ってもらうことは難しい。前の市史以降ではなく、細かくなくとも高度経済成長期まで遡ってやれると良いのでは。

今の社会の基盤ができたあの時代から取り上げないと、ひとつの読み物としてダイナミックなものではないと思う。

委員：私は、この項目立ては良いと思う。民俗文化・スポーツを見ていると、前の市史が発行された昭和57年から現在まで、市の合併によってではなく社会の動きの中で変わってきた民俗文化を比べるには良い項目区分だ。新しい項目を作ると、どういう風にしたらいいのか分からず、比べようがないと思う。

しかし、民俗文化とスポーツを一緒にするのはなぜなのか。スポーツや芸術は、生涯学習として扱うのが良いのでは。

委員長：確かに、スポーツと芸術は一緒になった方がジャンル性もあり、民俗文化とは違うと思う。

この分野では、先の委員が取り組む井上井月について、文化面で大きく扱い担当していただけると良いと思う。また、学芸員との相談が必要だが、岡村菊叟の文書のコピーが高遠歴史博物館に届いていると聞いている。そういったものをこの5年間で映像化し、資料編として市民に示すことができると良いとも思っている。

このように、伊那にとって財産であり、皆さんに過去を振り返って見てもらいたいことをジャンルに拘らずに考えてはどうかという考えが多い。一方で、3市町村の合併する前、合併、その後の課題を取り扱うことは行政面的に必要である。

今日8部会を提案したが、一度持ち帰り皆さんの意見をもとに検討し、次回の委員会で再提示する流れでご承認いただけるか。先を急がずに、固めていきたい。

<異議なし>

(2) 編さん室広報誌について

<資料に沿って企画調整幹より説明>

<質疑・意見等>

委員：年に何回の発行か。

企画調整幹：年4回の発行を予定している。

委員長：それではまず、編さん室広報誌を年4回発行するということについては、承認いただけるか。

<異議なし>

委員：投票についてだが、ひとつではなくふたつ印を付ける方が良いのでは。分散した場合に、決めやすいと思う。

委員：広報誌の内容は、編さん事業の状況報告以外にどんなものを扱うのか。過去の歴史なども発掘して扱うのか。

企画調整幹：2号目以降から、特集企画やトピックス記事を入れていく。

特集企画については、伊那の歴史をたどってみようということで、昔はそうだったんだなと懐かしさのある内容の紹介や編さん事業を進めていく中での新たな発見、成果なども載せていければと考えている。

トピックス記事については、今の疑問について書いていければと思う。例えば、最近の小学校ではないようだが、私が子供の頃には寒中休みがあった。寒中休みは、何のためにあったのか。この辺りは寒さが厳しいので、寒いから家にいるようにという

ことで休みになったのかといった、ちょっとした内容で小学生にも保護者の方にも興味を持っていただける内容を考えている。

委員：歴史と言えるような市誌の内容ではないが、タイトルに歴史という言葉を使っており心配だった。広報誌で時代関係なく伊那市の昔を掘り起こすのであれば、問題ないと思う。

委員長：何かアイディアなどがあれば、事務局の方にお寄せいただきたい。

副委員長：資料の右下に今後の日程が書いてある。統括会では、部会の大枠を決定し、その分担も大枠を決めないと次にいけない。編さん室や創造館、生涯学習課にも資料が多くある。その資料をどのように部会が中心となって扱い、どういう形で編さん室を利用し抽出するのかといったことも検討したが、これらも話し合う必要がある。

地域の皆で作るとなると、地域を尊重しなければならない。地域の担当も決めたわけだが、部門が決まり地域が決まればいくらか様になるのではないか。

今日はどこまで行き、今後の見通しとしてはどう進めるのか。

委員長：次に部会の開催を考えていたが、現時点では撤回する。方向性の具体的なプランが挙げられたので、これらを持ち帰って統括会で検討し、方向性を再度提案できればと考える。事務局としては、このような方向性でも構わないか。

<異議なし（事務局）>

委員：先ほど話にあったように、女性委員がいた方がいいという分野があると思う。またこの分野にはこういう人たちがいたらいいというものもあると思う。今の13人では、部会を開くには人数が少なく厳しいと感じる。もう少し人数を増やして、項目や分類を整理して形にした上で部会を開いた方が良いのでは。

委員長：再度方向性を提示して、全員が同じ方向を向く必要がある。今日の所は、一旦持ち帰り検討する方向でよろしくお願ひしたい。

女性委員を含めて、分野問わず、協力や執筆いただける方のプロフィールを事務局でまとめることができるように寄せていただき、提示や判断はこちらに任せていただきたい。ご協力をお願いしたい。

委員：編さん委員会の中には県の職員がいる。伊那市の先生だから伊那市の事業に参加するということが当たり前ではおかしい。本来の業務とは違うことをお願いしており、お願いする立場である。教育会長や教育会に対して一言伝えてお願いするというのが筋ではないか。委員長や教育長が教育会長などをお願いする必要があるのでは。

教育長：おっしゃる通りだ。協力していただく方にご挨拶していく。これからさらに広がっていくので、今のご指摘に対して丁寧に対応していきたいと思う。

委員：女性の委員については大事なことだと思うが、今のこの状況で編さん委員に加わっていただくという依頼は難しいと思う。仕事が進んでいく中で、歴史全般が難しくても、これについては言える、書けるという人は出てくると思う。今この時代、女性が携わらなければ語れないことはたくさんある。タイミングや状況、話の進み方を見て、作業の仕方を具体的にお願ひできる方が良いのでは。

委員長：先ほど、子育てなどこの分野については女性がいると良いのではないかというご発言を受け、歴史の編さんというよりはこの分野で書いてもらえる人を推薦するというつもりではいたが、確かに急ぐことではない。書くことが決まっているわけではないので、適当な方がいればということで、頭の片隅に置いていただきたい。

副委員長：この分野はこの人が良いというのは、どんどん挙げていただきたい。今の委員だけがいいのか。あまり先に延ばさず、まずは組織固めとして女性委員も含め増えると良い。執筆段階になったら、また増やしていけると良いのでは。

企画調整幹：女性の参加ということで意見をいただいているが、前もって事務局に連絡を頂けたらと思う。皆さんからメールアドレスをいただいているので、こういったものを活用いただいで教えていただきたい。

委員：何人か協力いただけそうな方を推薦しているが、この方たちについては確認いただいでいるのか。

企画調整幹：各委員から推薦をいただいでいるので、今後項目の検討の中でご紹介いただいた方をお示ししたいと考えている。そこで、検討していきたいと思う。

委員：私も急に来られて驚いたので、事務局から連絡が行く前に、委員から予め声掛けをして事務局から連絡があるということを伝えておくような配慮もあると良い。

委員長：この後の予定については、部会の開催はカット。第3回の委員会については、5月下旬としていたが、もう少し早まるとご承知おきいただきたい。

(3) その他

委員：特に民俗文化に関する調査など、お宅に伺う場合に何か品をお渡しできるといいのでは。準備していただけるか。

教育次長：予算的なものもあるので、進んでいく中で検討したいと思う。

委員長：伊那市のクリアファイルはどうか。

教育次長：啓発物品などもあるので、活用できるように検討する。

6 閉会（教育次長）